地域おこし協力隊
活動レポート

協力隊が行く！

今月の担当は りっか隊員です！

こんにちは、地域おこし協力隊の篠塚立夏です。最近、お魚センターの鮮魚コーナーで売っている「カツオのタタキの切れっ端」を週3ペースで食べています。通常のものと比べて安いのに、ボリュームがありお肉のような満足感！おすすめです。

大好きな枕崎の夏

すっかり秋の空になりました。枕崎は春秋が短く、夏はやたらと長いと認識していましたが、いざ振り返ってみると瞬く間に夏が駆け抜けていったように感じます。昼夜を問わず続く暑さ、これでもかと照りつける日差し、そして時折襲ってくる豪雨や長雨に苦しめられつつも、私はやっぱり夏の枕崎が一番好きです。まちも自然も生き生きと輝いて見えますよね。地域おこし協力隊として過ごす最後の夏ということもあり、年甲斐もなく真っ黒に日焼けをしながら楽しみました。

特に印象的だったのは、観光ボランティアガイド「まくらざき探検隊」の代表・北川忠武さんと一緒に園見岳の清流を開拓しに行ったことです。道も川も整備されておらず、濃い濃いとした緑がジャングルのように生い茂り、まさに探検をしているようでとてもワクワクしました。草木や川の中の石に足を取られながら道なき道を進むと、そこには美しい滝が。そばには水神様がひっそりと祀られていました。聞くところによると、以前ここは周辺の集落の方々にとっての貴重な水源であり、子どもたちの憩いの場だったそうです。足元を静かに流れる水は冷たく澄んでおり、さらに木々が直射日光を遮ってくれているおかげで、束の間の快適な避暑となりました。

久しぶりに全く知らない枕崎の顔を見ることができ、移住当初の初々しい頃に戻ったようでした。夏のいい思い出です。

協力隊任期も残り半年に

地域おこし協力隊の任期も残すところ半年を切りました。3年間の任期のうち2年以上をコロナ禍で過ごすことになり、思うように活動ができない不甲斐なさは少なからず感じています。しかしながら、そのような状況下でも、私からのお願いに応じてくださったり、些細なことでも声をかけてくださる方がいたことが心の大きな支えでした。

着任当初から半年ほどは、地域おこし協力隊として何をすべきか暗中模索状態でしたが、結果的にインスタグラムを中心としたメディアやイベントを通じた枕崎の広報活動がメインとなりました。広告代理店で働いていた頃の知見を応用しつつ、実践を繰り返しながらなんとか自分なりの活動スタイルを築き上げることができたと思っています。以前は会社で割り振られた業務をすれば評価をされていましたが、自分次第でどんなことにも挑戦ができる環境に身を置けたからこそ、広報の分野においてさらに成長することができました。残された時間を有意義に使いながら、枕崎の魅力を引き続き伝えていきたいです。

市長コラム vol. 32

地産地消型エネルギー需給体制の構築

こんにちは、前田祝成です。

エネルギーの地産地消への取り組みを先月のコラムに書きました。本市が取り組み始めた地域新電力事業については、ここ数年、全国でも複数の自治体が取り組んでいます。その背景には、総務省、環境省などを中心に国が事業を推奨しているということがあります。

先の自民党総裁選挙に出馬した高市早苗政調会長もその政策を著した書籍の中で「地産地消型エネルギー需給体制の構築」の必要性を述べています。氏は「新しい働き方、暮らし方」「デジタルトランスフォーメーション」と並んで、この「地産地消型エネルギー需給体制の構築」をアフターコロナの地方創生の3つのキーワードとして掲げています。高市氏が総務大臣を務めていた2014年11月に立ち上げた「分散型エネルギーインフラプロジェクト」は、まさに本市が今年度取り組んでいるエネルギー事業のマスタープラン作成に活用しているプロジェクトです。

先月のコラムでは、このエネルギー事業で実現することとして、エネルギーの地産地消により経済の地域内循環を促進することを中心に述べましたが、もう一つ、レジリエンス（強靭さ）強化というものがあります。自然災害やサイバー攻撃による大規模停電を防止するなどの目的で太陽光や蓄電池を用いた独自の電源を確保することで危機管理・レジリエンス強化を図るということを将来へ向けた成長投資として検討しています。本市は台風の常襲地域です。昨年の台風でも長時間の停電が発生しましたが、そのような自然災害に対しても、この分散型エネルギー事業を通じて備えていくことが可能となります。

市民の暮らしをより良く発展させていくエネルギーの地産地消については、今後も事業の進捗をお知らせしてまいります。

枕崎（まくら）×人（ひと）×仕事（しごと）　No.20

田渕（はるみ）　晴美 さん　(55)

訪問看護ステーション　つなぐ
ホスピタリティ 晴RUYA～ハレルヤ～ / 西本町

「枕崎×人×仕事」では、枕崎にあるさまざまな仕事と、その仕事に携わる人を紹介します。

今月は、新たに訪問看護ステーションを立ち上げたメッセンジャーナースの田渕さんを取材しました。

今年の6月、介護保険適用外の方を対象にした訪問看護ステーション「ホスピタリティ 晴RUYA～ハレルヤ～」が開業しました。今回は「晴RUYA～ハレルヤ～」を経営するメッセンジャーナースの田渕晴美さんを取材しました。

枕崎市出身の田渕さんは、立神小学校、枕崎中学校を卒業後、現在の鳳凰高校に進学し、看護師の資格を取得しました。その後、大阪の病院で2年間看護師として働き、結婚を機に枕崎に戻ってきました。平成元年の7月から枕崎市立病院で働き始め、今年の3月に退職するまで、約35年間勤務しました。病院で働く中で、家に帰りたいけど帰れない患者やちょっとした手助けがあれば自宅で生活していける患者を目にしてきました。「患者が自分の生き方を選択し、その人らしく生きていくための医療、そのために自分にできることはないかと考えていた」と田渕さんは話します。そんな時にメッセンジャーナースという資格を知ります。メッセンジャーナースは、医師と患者の間に立ち、患者に寄り添いながら専門的なアドバイスを行う看護師です。「例えば、人工呼吸器を付けないといけない場面になり、助けたいという医者の思いと生きてほしいという家族の思い、そして患者本人の思いに少しの『ずれ』が生じることがある。人工呼吸器を付けて延命をした結果、苦しそうにしている姿を見て、こんなはずじゃなかったという思いの『ずれ』。そうならないよう、医師と患者やその家族の架け橋となり、思いをつなぐのがメッセンジャーナース」と田渕さんは話します。

53歳の時に資格を取得し、自分の生きたい人生を生きることのサポートをしたいと病院を退職し、「ホスピタリティ 晴RUYA～ハレルヤ～」を立ち上げました。そして、10月には訪問看護ステーション「つなぐ」を立ち上げました。そして、医師の指示の下、自宅で生活しながら支援を必要とする患者を訪問し、専門的なアドバイスなどを行っています。「笑って自分の人生を終えられる、そのお手伝いができたら」と田渕さんは話します。

スポーツ・文化イベント情報

南冥館
開 9:00 ～ 17:00
※入館は16：30まで
休 毎週月曜日
※月曜日が祝祭日の場合は翌日
問 スポーツ・文化振興課
TEL72-9998

枕崎市「かつおの絵」コンクール展

枕崎市内の小中学校の児童生徒による「かつお」をテーマとした作品を展示します。

- **会期**　11月20日（土）～28日（日）
- **会場**　南冥館
- **観覧料**　無料

南冥館の臨時休館について

南冥館の内部改修工事に伴い、南冥館を臨時休館します。

- **期間**　11月29日（月）～1月31日（月）

交流戦の記録がDVDに

昨年度実施された市営野球場のリニューアルを記念して、今年の4月30日に開催された枕崎高校野球部と鹿児島水産高校野球部の交流戦の様子を収めたDVDが完成しました。

10月11日に枕崎高校でDVDの贈呈式が行われ、前田市長から両校の生徒会長へDVDが贈呈されました。

今回の交流戦をきっかけに両校では今まで以上に友好関係を深め、また来年度の交流戦に向けて準備を進めています。